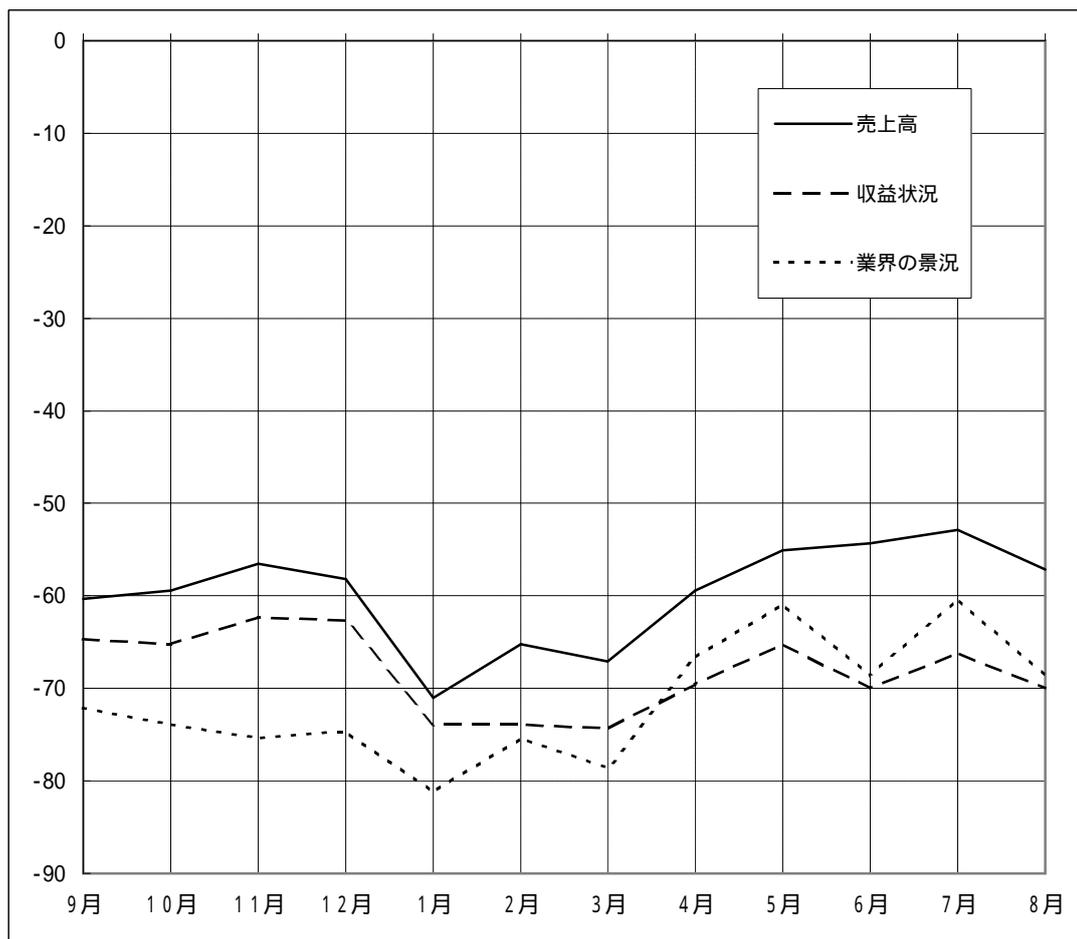


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年9月～平成14年8月

単位:ポイント



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
売上高	-60.3	-59.4	-56.5	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1
収益状況	-64.7	-65.2	-62.3	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0
業界の景況	-72.1	-73.9	-75.4	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6

8月のDI値をみると、3項目全てが前月より悪化し、7月の回復感を維持できなかった。「景況」は前月より8.3ポイントの悪化、「収益状況」も3.8ポイントの悪化で、共に7月の改善分がマイナスとなり、6月の水準に戻った。また、「売上高」も前月より4.2ポイントの悪化で、5ヶ月連続の改善には至らず、4月の水準の-50%台後半になったことから、中小企業の業況は、依然として低水準のまま一進一退が続き、回復感が持続しえない厳しい状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、不変とする割合が増えた中で、「食料品」の一部で好転がみられた他、前月まで2ヶ月好転としていた「一般機器」を含め、「鉄鋼・金属」「木材・木製品」で悪化の割合が高く、また、非製造業では、不変とする割合が減った中で、好転した業種がみられず、総体的には製造業より景況感が悪く、「卸売業」「サービス業」「鉱業」で悪化の割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「木材・木製品」を含めた製造業では、受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他、「一般機器」で操業度アップで売上げ増加の報告、「商店街」「卸・小売業」を含めた非製造業では、販売単価の低下や季節商品を含めた個人消費の低迷等の報告の他、一部の商店街では地元スーパーの経営破綻の影響懸念等の報告もされている。総体的には業種を問わず先行きの不安感・不透明感を危惧する等厳しい現況が窺われる。